

解答

一

- 問一 イ
問二 イ
問三 エ
問四 エ
問五 イ
問六 前者は西洋の物と心を分離した考え方であり、後者は日本古来の物と心を区別しない世界観という違いがある。

二

- 問一 エ
問二 I 晴耕雨読 II ア 心機一転 イ 起死回生 ウ 前代未聞
問三 イ
問四 オ
問五 生きるものには領分があり、それぞれがふさわしい場所で生きて行くということ。
問六 ウ
問七 ア × イ ○ ウ × エ ○ オ ○

三

- ① 真 ② 朗報 ③ 小康 ④ 粉 ⑤ 勇 ⑥ 工面 ⑦ 街頭 ⑧ 挙行

解説

一

- 問四 「経済状況が豊かで、食生活は貧困」について説明しているところに着目します。適当にものが不足していた昔とは違って「おいしい」と感じられる食生活の機会が少ないことや、働くために時間を節約することで、「貧困な食事」になってしまうことなどから選択肢エが選べます。
問六 本文では、西洋の物質文明と日本の古来の精神について述べています。——線4は、心と物の明確な区別という前提に立っている西洋の考え方について、——線5は、ものところを区別しない世界観である日本の伝統的な考え方について説明します。

二

- 問五 ——線3を含む和尚の話に着目すると、「摂理とは仏の意思だ。」以降の部分で「自然の摂理」とはどういうことかについて述べられているので、わかりやすくまとめます。
問六 本文全体の和尚とノブヒコとのやりとりに着目します。和尚が六歳の子であるノブヒコの言葉遣いに厳しいことや、ノブヒコが和尚に命じられた用事をすべてこなさなくてはならなかったり、和尚の話のすべてを理解することはできなかった様子などから、選択肢ウが最も適当です。